

して使用漁具数を50鉢増せば漁獲量は平均6.6尾の増産となっており、漁獲努力量は直接生産増につながっていることが察せられる。

サメ、シヤチ等による漁獲物の被害状況

マグロ延縄漁業は、どの漁場で操業してもサメ、シヤチ等によるマグロ、カジキ類の食害は、多少なりとも見かけられるものであるが、各漁場別に見るとハルマヘラ近海が最も高く総被害率2.084%の高率を示し、食害の一番少ない漁場は、フィリピン東方近海の6.08%であった。

1) フィリピン東方近海

マグロ類は616尾のうち被害魚は44尾で被害率は7.14%、カジキ類は124尾のうち被害魚は僅か1尾で被害率は0.80%である。

2) ミクロネシア海域

マグロ類は1,489尾のうち被害魚は289尾で被害率は19.41%の高率を示し、カジキ類は77尾のうち被害魚が4尾で被害率は5.19%を示した。

3) ハルマヘラ近海

マグロ類は1,417尾のうち被害魚が310尾で被害率は21.87%の最多被害率を記録し、カジキ類も182尾のうち被害魚は23尾で被害率は12.63%で高い傾向がある。

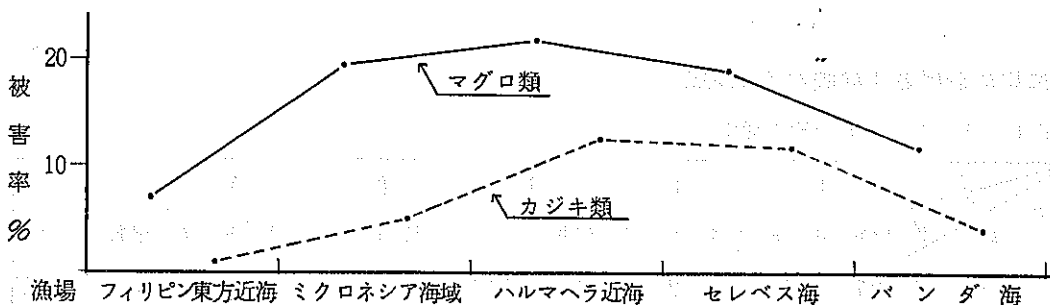
4) セレベス海

マグロ類は3,721尾のうち被害魚が709尾で被害率は19.05%の高率を示し、カジキ類も196尾のうち被害魚が23尾で被害率は11.73%で少々高い傾向がある。

5) バンダ海

マグロ類は674尾のうち被害魚は78尾で被害率は11.57%、カジキ類は86尾のうち被害魚は4尾で被害率は4.65%を示し、今體的に並またはそれ以下の状態であろうかと思われる。

図5. 漁場別マグロ、カジキ類の被害状況



赤道を中心に南緯の漁場と北緯の漁場における漁獲比

赤道以北で操業したのは160回で延使用釣針数213,336本、漁獲尾数は6,872尾、平均釣獲率は3.22%、魚種別にはマグロ類が5,300尾で2.48%、カジキ類497尾で0.23%、サメ類1,075尾で0.50%であった。